

柑芦会 本部 ニュース

第 32 号 2022. 3. 1.



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 寄稿①

「盛世 (せいせい)」 と領土問題

経済学部教授 瀧野邦雄

中国歴代の王朝には「盛世」と呼ばれる時期がある。これは、その王朝がいちばん栄えた期間を指す。「盛世」は、だいたい王朝の最初の数十年間の混乱した状況が落ち着いてから始まるようである。そしてこの時期は七十年から八十年くらい続く。「盛世」になると、なんでもやりたい放題で、怖いものなしとなる。よほど無茶苦茶なことをしない限り、何をしてもうまくゆく。ただし、「盛世」も行き着くところまで行くと、反転して下り坂に向かう。

さて、この「盛世」になると、王朝は領土問題の解決に乗り出すことが多い。そもそも、大きな版図を持っていた王朝が衰退しはじめると、それに乗じて合法的であれ非合法的であれ領土が奪われてゆく。これを中国では、王朝ではなく民族の恥辱と理解する。そこで、次の王朝が再び「盛世」となると、前の王朝が奪われた領土をなんとでも復活させなければならないと考える。

こうした領土問題は、次の王朝とは関係ないような気がするが、民族の恥だから回復しなければならない。それが「盛世」となった次の王朝の義務であると考えるのである。たとえ前王朝が正式の条約を結んだ領土の割譲であっても、それは国力の弱体化という弱みに付け込んでのことであるから無視してもよい。今なら国際的に共通した理解があり、このような無理は通らないであろう。しかし、皇帝が国を支配していたむかしのことである。問題はなかった。

この恥辱と結びついた領土回復運動は、私たち日本人の感覚と異なり、すくなくとも数百年の単位で考えられる。たとえば、儒教の経典のひとつである『春秋公羊伝』(莊公四年)には、どの世代の人間までが君父の仇への復讐を考えたらよいのかという議論が行なわれている。それによると、恥辱を受けた場合、その復讐は九世代まではあたりまえ、百世代の後であってもかまわないとある。『論語』(憲問)にも「徳を以て怨みに報いる(仇への怨みに、恩恵を与えて報いる)」についての問答があり、孔子は「怨みのある者に恩徳で報いたならば、自分に対して徳を施してくれた人に何を報いればいいのか」と発言している。中国の政治思想の根幹をなした儒教は、なかなか手厳しい。もっとも道家の経典の『老子』(第六十三章)には、「小には大をあたえ、少ないものには多く返し、怨みに報いるには徳を用いる」とあり、「怨みに報いるに徳を以てす」を肯定しているが。

このように、各王朝は「盛世」になると、前の王朝が奪われた領土の回復を本気で考える。これは、受けた恥辱は時間がいくらかかって晴らすという儒教的な観点からするときわめて当たり前の行動で

あった。しかも奪われた時期は、数百年以前のことでかまわない。

では、いつも領土回復運動の最初の標的となった北方の騎馬民族国家はどう対処したのだろうか。数百年前から歴史的に自分たちの土地だと思っていたのが、急に強面で返還を求められるのであるから、もちろん困ったに違いない。しかも相手は大国である。

ある時には「盛世」の王朝と軍事的に対立したこともあった。ただしこれはお互いに代償をともなった。またある時は、相手の立場を持ち上げて相互依存の関係に持ち込み、簡単に手が出せないようにすることもあった。これは、知恵を絞って交渉や妥協を繰り返さないといけませんが、住民は安心して過ごすことができた。

騎馬民族国家は、このように努力して、ひたすらその王朝の「盛世」の時期が過ぎ去るのを待った。「盛世」が過ぎると、王朝内でいろいろな問題が頻発するようになり、その対処に全面的に取り組まないといけなくなる。そうすると、対外的な領土回復運動はだいたい威勢のいい掛け声だけになってしまうからである。騎馬民族国家もなかなか気長であったと言えるが、「盛世」となった大国にはこのような対策しかなかったからであろう。

1. 寄稿②

コロナ後を自覚できる時

九州支部長 石川 和彦 (大 19)

シニア向けの全国レベルの将棋大会には二とおりある。

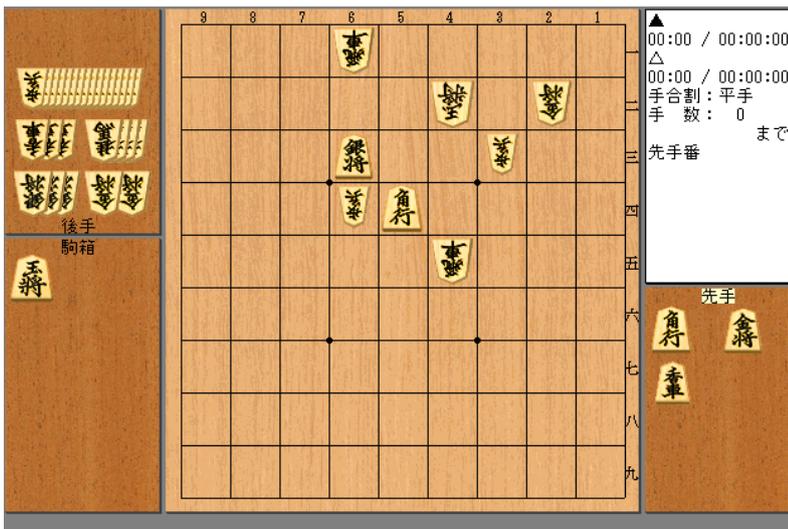
一つは厚生労働省等の主催による「全国健康福祉祭」で通称、ネンリンピックと云われる。将棋は3人一組の団体戦による交流大会である。2020年には岐阜県で開催予定であったがコロナ禍により、翌2021年を含めて2年連続中止となった。2022年では岐阜県は開催権利をいったん返上して今年は神奈川県で秋に開催予定となっている。

もう一つは日本将棋連盟主催でシニア名人戦がある。これは各県で代表を選出して全国大会が春に開催されることになっている。これもまた、2年連続中止となっている。連盟より今年は実施すると連絡があり、1月に長崎県大会を開催して代表を決定した。代表を決めたものの4月の神戸大会が少々、不透明である。どう動くかオミクロン株といったところです。

この二つの大会がスムーズに開催されるようになった時が真にコロナ後を自覚できる時ではないかと私は思っています。

最後におまけの詰将棋を掲載いたします。

今年の年賀状に添えた易しい5手詰作品です。



2. 支部だより

大阪支部

第32回柑芦経済講演会のご案内

拝啓日頃は柑芦会大阪支部の諸活動に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。今年度の「第32回柑芦経済講演会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの開催に決定致しました。コロナ禍で経済の仕組みが変わり始めています。その中でも目覚ましい変化を遂げて普及拡大しているのが配達サービス。今回は情報処理・行動計画などを研究しておられる経済学部長の芦田教授を講師にお迎えし、現在ブームになっている食品配達サービスの配達計画の仕組みについてご講演いただきます。

万障繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日：2022年3月19日(土)講演会開始：13：00（受付12：30～）終了：14：30

2. 講演者：和歌山大学経済学部長芦田昌也教授

3. 演題：『食品宅配の配達計画を考える』

4. 開催方法：オンラインzoomミーティングで開催

*メールが受信できるパソコンやスマートフォンでご覧になれます。初めての方や不慣れな方も、事前にzoom接続テストでご自宅等から接続できるかどうかを確認できます。

5. 参加費：無料

6. 申込方法：下記URLよりお申してください。

<https://forms.gle/ywxKAB2Dc3Np2wBN8>

*申込完了通知メールが、申込完了後すぐに自動で届きます。当日の詳細が記載されていますので当日まで保管してください。

*申込完了通知メールが届かない場合は、申込フォームが送信できていない、メールアドレス間違い、迷惑メールフォルダーに入っているなどの理由が考えられます。ご確認ください。

芦田昌也経済学部長プロフィール

大阪大学工学部通信工学科卒業

平. 5. 3 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程（通信工学専攻）修了

平. 8. 3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程（通信工学専攻）単位修得退学

平. 8. 4 和歌山大学経済学部講師

平. 10. 4 和歌山大学経済学部助教授

平. 27. 4 和歌山大学経済学部教授（現在に至る）

平. 27. 4 和歌山大学経済学部副学部長（平成31年3月31日まで）

平. 31. 4 和歌山大学評議員（現在に至る）

令. 3. 4 和歌山大学経済学部学部長（現在に至る）

専門は情報処理、知識の利用、人工知能、行動計画、探索。

お問い合わせ先大阪支部経済講演会実行委員会 osaka@kourokai.org

幹事長西本正人（23期）・副支部長糸川公偉（26期）

副支部長平野勝久（31期）・財務委員長岡田治（32期）

3. 事務局より

柑芦誌 53号名刺広告募集

2022年に経済学部経済学部創立100周年を迎えますが、次号の柑芦第53号は100周年記念号として発行する予定です。（2022年10月発行予定）

つきましては、同号にて会員皆様の名刺広告を実施いたしますので、お申し込み下さい。

名刺広告の申込要領及び申込書は、柑芦会ホームページに掲載しています。

検索手順及び申込方法

- （1）柑芦会ホームページ「和歌山大学経済学部同窓会柑芦会」の
トップ画面「事務局からのお知らせ」をクリック

↓

- （2）2022年2月7日付
＜和歌山大学経済学部創立100周年記念＞名刺広告について をクリック

↓

- （3）「柑芦53号」（2022年度版）名刺広告申込要領及び申込書を掲載しています。
申込書をプリントアウトして、FAXにてお申し込みください。

柑芦会本部 事務局

■ 読者の皆様からの「投稿」もお待ちしています！

（注）編集の都合上、次号に回る場合や文字数の調整をさせていただく場合があることをお含みください。

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号
Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925 E-Mail: honbu@kourokai.org



<https://dousoukai.site/kourokai/>

フェイスブック
「柑芦会オフィシャルページ」
(非公開グループ)

「柑芦会ホームページ」
(公開サイト)
